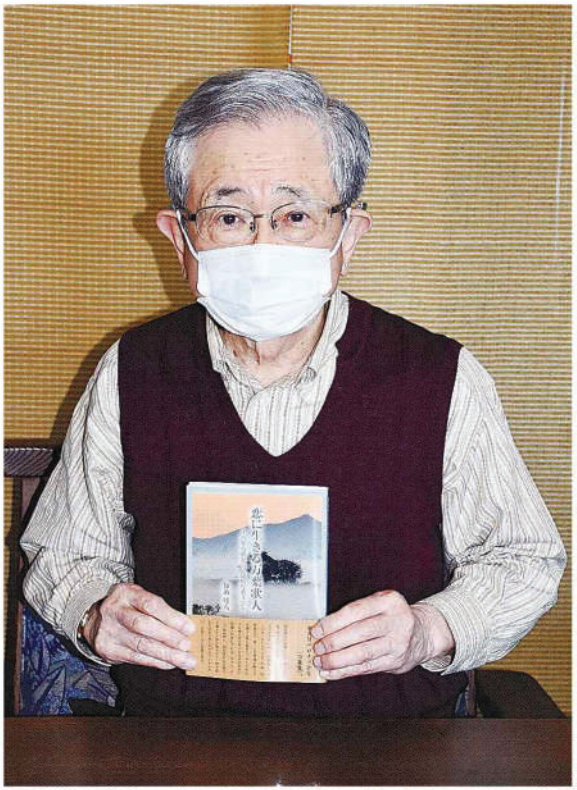
万葉集の解説書自費出版

小樽の元大学教員加納さん

「いとおしむ心」の価値伝える



「恋に生きる万葉歌人―高雅な歌から官能的な歌まで」を自費出版した加納さん

小樽市在住の元大学教員加納邦光さん(80)が、万葉集の解説書「恋に生きる万葉歌人―高雅な歌から官能的な歌まで」を自費出版した。古代の歌人が詠んだ優雅で繊細な歌を独自の視点から読み解く内容で、加納さんは「生きているものをいとおしむ心が過去から現在、未来へと命をつないでいくことを本を通して伝えたい」と話している。

加納さんは室蘭出身。東北大独文学科を卒業後、道内外の大学でドイツ語を教え、30年以上前に妻の出身地小樽に移住。70歳で退職後、日本の古典も勉強しようと、万葉集を学ぶ市民講座に通ううちに「1200年以上前に作られたのに、率直で大胆な現代の感覚に近い」（加納さん）歌の数々に心をひかれるように。1月から執筆を始め、コロナ禍で家で過ごす時間が増える中、書き進めていった。

本は3部構成で、第1部は男女が集まって歌で思いを伝えあった「歌垣」や占いなど古代の風習を説明。第2部以降は、中大兄皇子や額田王などの恋模様を表現した歌とともに現代語訳や解説を記している。

本はB6判153ページで、1430円。星雲社（東京）から1500部発行し、小樽や札幌の書店で販売している。

（日野夏美）